

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑧

職藝学院

教授 渡邊美保子

クサキョウチクトウ

クサキョウチクトウは、イギリスの宿根草ポーター花壇ではおなじみで、たくさんの園芸品種があります(写真1)。宿根フロックスとも呼ばれています。茎は地面から直立して伸び、草丈も60~100センチほどになりますが、支柱の必要もないので重宝されて、花壇では後の方に配置されます。



写真1 3種類のクサキョウチクトウ(中央)。中央植物園

新芽は4月になると地面から数本のびはじめます。1ヶ月もすると、お行儀のよいまっすぐな茎が目立ちはじめ、6月の中旬には明るい緑色の葉をつけた茎の先に、とんがったつぼみの集団が現れます。花は6月下旬には咲き始め、8月頃まで楽しむことができます(写真2)。ぎっしりと詰まったつぼみの一つ一つはらせん状に閉じていて、色づいてくるとソフトクリー



写真2 うどんこ病に強い昔からある品種。 職藝学院

ムのような形に見えます。花は一斉に咲いて、しばらくすると花がぼたぼたと地面に落ちて茶色くなります。もう終わりかなと思って、つい刈り込みたくなりますがそこはじっと我慢します。よく見ると次のつぼみの集団(2番花)が出番を待っています。咲き終わる頃に次のつぼみが準備をされていて、3番花、4番花と休み休み咲いてゆくのので2ヶ月ほど楽しむことができます。

クサキョウチクトウは、3種類ぐらいの異なる色の品種を植え込みますと、自然交配し、こぼれ種があちらこちらから発芽します。雑草にまぎれているので間違えて引き抜いてしまいそうな姿ですが、これを気長に育てますと親とは微妙に違った花の色が咲き出します(写真3)。ただし、花壇の雑草を一本残らずきれいに取ってしまう几帳面な人の花壇ではお目にかかれません。幼苗の間は雑草の間で生きのびているからです。



写真3 こぼれ種から生まれた白と赤紫系統の交配種。 職藝学院

初夏から秋まで楽しめる組み合わせは、ヘメロカリス、クサキョウチクトウ、宿根アスター、シユウメイギクなどを混ぜて植え込むことです。6月から10月まで季節を追いかけるように花が咲いてくれます。